

# ビジネス情報系の専門教育における アクティブラーニングの取り組み －「ビジネス情報演習」を中心に－

石橋慶一・藤井厚紀（福岡工業大学短期大学部）

キーワード：授業改善、アクティブラーニング、学習方法、演習

## 1. はじめに

「ビジネス情報演習」は、表計算ソフトを用いた経営分析について学ぶ本学科の専門教育科目である。学習目標は、「与えられた課題に対して自らが主体的に取り組むことができる」、「レポートを適切に作成することができる」などである。これらの学習目標を達成するために今回、「ビジネス情報演習」の取り組みとしてアクティブラーニング導入を試みた。筆者らは授業改善のために次の2つの取り組みを授業に導入した。まず、1年次から学習してきた文書作成や表計算などのオフィスツールの活用方法や財務諸表を見るための簿記や会計などの知識を用いて、実際の企業データを用いた講義と演習をおこなった。実際のデータを用いることによって、机上の勉強だけではなくその学習内容が実際に演習に出てくることで興味関心を向上させるようにした。次に演習を実施する際には、「教員に質問」、「グループ内の友人と議論」、「自分自身で調べ学修」の3つの方法を学生自身が選択して課題を解決できるようにした。3つの方法の自由選択を試みたことにより学生の主体性の向上や自由選択方法に対する親和性が認められたため、その概要について報告する。

## 2. 授業実践の内容

(1) 対象学生と関連講義 「ビジネス情報演習」は、「専門ゼミナールⅠ」と並んで2年生前期の選択必修科目に指定されている。2015年度は本学のビジネス情報学科2年生56名が履修している。「ビジネス情報演習」の関連科目は、1年前期「ビジネス処理演習Ⅰ」、「簿記論Ⅰ」、「会計学Ⅰ」、1年後期「ビジネス処理演習Ⅱ」、「簿記論Ⅱ」、「会計学Ⅱ」である。これらの科目から文書作成や表計算などのオフィスツールの活用方法や経営分析に必要な貸借対照表や損益計算書などの財務諸表について理解する。しかしこれらの科目は選択科目であり、学生の履修状況によっては、学習内容の理解や定着の個人差が大きくなると思われる。

(2) 授業内容と演習の進め方 「ビジネス情報演習」は表1のように「データ処理に関する演習」、「経営分析に関する演習」、「総合実践演習」の3つの演習からなる。それぞれの演習は学修目標を達成するために、講義と演習を実施する。学修番号2と4では成績を平均化した固定グループを教員が作成し、そのグループにより演習を実施した。学修番号6では学生に自由にグループ編成させた任意グループにより演習を実施した。演習の課題解

決のために「教員に質問」、「グループ内の友人と議論」、「自分自身で調べ学修」の3つの方法を学生自身が選択して課題を解決できるようにした。

表1 ビジネス情報演習の概要

演習名	学修目的	学修番号	主な学修内容
データ処理に関する演習	(A)表計算ソフトを使ったデータ処理と報告書の作成	1	表計算ソフトの使用法、報告書の作成方法
		2	報告書作成①
経営分析に関する演習	(B)有価証券報告書とインターネット情報を用いた投資判断と報告書の作成	3	EDINETを用いた有価証券報告書の閲覧方法、財務諸表分析の方法、インターネットでの情報検索の方法、投資判断の方法
		4	報告書作成②
		5	総合実践演習の説明
総合実践演習	(C)2社を比較した取引先の決定と報告書の作成	6	報告書作成③

## 3. 授業実践の結果

(1) 教員による評価 演習に取り組む姿勢に関して、指導者らは机間指導を行いながら様相観察をおこなった。その結果、3つの学習方法を取り入

れることによって、学生らは取り入れる前よりもグループ間での会話量が多くなり、また集中して演習の取り組みをおこなうなど、導入前より主体的に演習をおこなっていることが指導者間で確認できた。ただし、固定グループよりも任意グループの方がより活発な意見交換ができていた。

(2) 学生の意見 アンケートによるアンケート調査をおこない「学習内容を理解するためにはどのような学習方法が最も自分に適していますか」との問いに対して図1のような回答を得た。演習の際、常に1つの方法を取るA教員、B友人、C自分自身よりも、常に3つの方法を自由選択するD自由選択を選んだ学生は

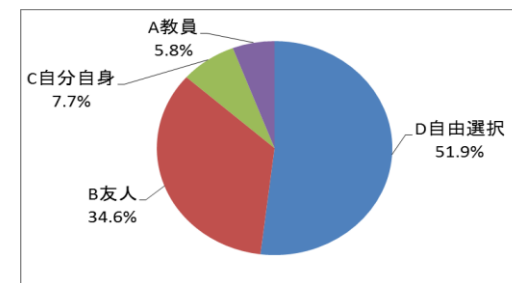


図1 自分に適した学習方法

51.9%であった。学生の意見（そのまま記述）は「単元によっては教えあいが良かったり、個人で調べる方が良かったりと単元ごとに差があるから」、「基本的に自分で取り組んで、わからないところがあれば友達に聞く。それでもわからなければ教員に聞くというやり方が1番やりやすかった」といった回答が多かった。一方、毎回グループ内の友人と議論のB友人を選んだ学生の意見（そのまま記述）は「友人だと気軽に聞くことができるから」、「身近に聞けるということから、わからない点が容易に解決されやすい」などわからないことを友人に最初から頼る傾向を示す回答が多かった。

(3) まとめと課題 3つの学習方法を自由に選択することによって、主体的に演習をおこなうことが確認できた。さらに固定グループよりも任意グループの方がより活発な意見交換ができていた。学習グループメンバー間の人間関係の成熟度と活動レベルとの関係などをさらに細かく分析することが今後の課題である。